

味や製法の説明も受けながら注いでもらいます



地酒に酔いしれ ご満悦
筑後 SAKE フェスタ

10月5日、6日に久留米シティプラザ六角堂広場で、筑後地域の19蔵元が一堂に集結した筑後SAKEフェスタが開かれました。会場は、チケットを片手に、ほろ酔い気分の参加者6000人で埋め尽くされました。同僚と参加した菊池義明さん（大石町）は、「毎年城島の酒蔵びらきにも行きますが、ここでは城島以外の地酒も一度に楽しめるのがいいですね。コップに少し多めに注いでくれる蔵元さんの心遣いがあります」と顔をほころばせました。

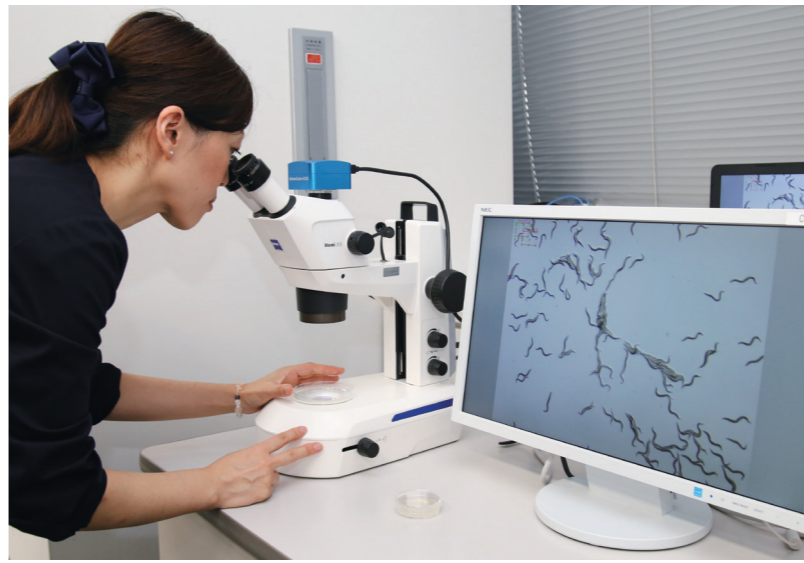
子ども運転士は大興奮
運転シミュレーター体験



実際に研修で使われている機器を使って体験しました

10月14日の「鉄道の日」にちなんで、10月6日に西日本鉄道電車教習所で列車運転士教育用のシミュレーターを体験できる催しが行われました。25組の子どもたちが運転士になりきって発進、停車などの運転操作や、車内アナウンスやドアの開閉を行いました。参加した池田栞向さん（南薫小1年）は「列車を動かす体験ができて、とても楽しかったです。将来は運転士になりたいです」と話しました。

HIROTSU バイオサイエンス
線虫でがん検査
実用化に向け協力



10月1日、本庁舎で行われた記者会見の会場では、モニターに映し出した線虫の動きが披露されました



記者会見で握手をする広津社長（中央左）と大久保市長（中央右）、共同で試験に協力する小都市の加地良光市長（左）、初田寿福岡県商工部次長

実用化は来年1月
九州大学発のベンチャー企業「HIROTSU バイオサイエンス」は、線虫を使ったがん検査を開発。来年1月の実用化に向け、一連の流れを確認し、課題の洗い出しと自動解析装置の運用試験を行います。久留米市はこれまでも同社を支援。今回は職員1000人分の尿を提供し、装置の運用試験に協力します。

安価で高精度な検査方法
開発されたのは「N-NOISE」という、体長1mm程度の線虫の嗅覚を使った検査法です。がん患者の尿の臭いに反応して近づいていく習性を利用し、胃がんや肺がん、乳がんなど15種類のがんのリスクを調べることができ、これまでに行った検査では85%的中率。1滴の尿で検査できる簡易性と、1回9800円と安価な費用が特徴です。来年から年間最大25万人分の解析をできるように準備を進めています。

がん検診受診率の向上へ
市は福岡県と共同で進めてきた「福岡バイオバレープロジェクト」

市政の動き

性別にとらわれず
活躍の団体を表彰

10月4日、個性や能力を発揮できる社会づくりに寄与した人や団体を表彰する「男女共同参画社会づくり表彰式」が開かれました。1回目の今年は「市消防団有馬火消しはしご隊」と「津福校区まちづくり協議会」が受賞。同協議会の角栄子会長は「人材育成に力を注ぎたい」と語りました。
◎男女平等政策課（☎0942・30・9044、FAX 0942・30・9703）

市ホームページ
男女共同参画社会づくり表彰へ
詳しくはQRコード



受賞した2団体の皆さん

「シエクト」で、30年度から、自動解析装置の開発や実証実験などに対して支援を行ってきました。

広津崇亮社長は「がん検診の受診率向上には画期的な方法が必要だと思ってきました。早期発見のために重要な第1次のふるい分け検査を、安価・高精度で実現できました」と話しました。

大久保勉市長は「尿1滴でできることに価値がある。仕事や子育てなどで時間が無い人も受診しやすくなるので、実用化に向けてしっかり支援していきたい」と期待を込めました。

◎新産業創出支援課（☎0942・30・9136、FAX 0942・30・9707）



検査の仕組みや優位性などを説明する広津社長



水に漬かった農作物（善導寺町）

大雨被害を支援
補正予算に15億円

7・8月の記録的な大雨被害を受け、久留米市は9月市議会と10月の臨時会で、計15億円の一般会計補正予算を計上しました。野菜や花など農作物の被害額は8億円、ハウスなど施設の被害額は3億円にも及びました。河川や道路の復旧、農業用機械などの修繕や買い替え、種苗などの購入費の一部を助成します。
◎財政課（☎0942・30・9117、FAX 0942・30・9703）

市ホームページ
令和元年度補正予算へ
詳しくはQRコード